

ひろしま WENET

広島市女性団体連絡会議 広報紙

第 25 号

2008.3.31

目 次

- 1、2008 国際女性デーひろしま 事業報告
- 2、3・1 カザフスタン市民交流会報告
- 3、DV 防止講座「それって本物の愛？」報告
- 4、日本女性会議 2007 ひろしま総会・講演会のお知らせ

ひろしまWENETは、女性団体・グループ及び個人が連携し、全市的・横断的にその力を結集して女性問題の解決に向け行動することにより、団体の構成員及び個人のより一層の資質の向上と団体活動の進展を図るとともに、広島市が目指す男女共同参画社会の実現に寄与することを目的としています。この広報紙は会員および一般のみなさまにWENETの活動を知っていただくために発行しています。

2008国際女性デーひろしま(報告) ★長編ドキュメンタリー映画「ひめゆり」上映&関連企画

2008年3月8日(土)南区民文化センターホールにおいて、2008国際女性デーを記念して長編ドキュメンタリー映画「ひめゆり」の上映と記念行事を実行委員会(22団体で構成・信政実行委員長)と広島市の主催で行ないました。

男女平等・女性の地位向上をめざして活動しているWENET(広島市女性団体連絡会議)などが、実行委員会を立ちあげ広島市とともに開催を始めて、5年目を迎えました。

国際女性デーは、1904年3月8日にニューヨークで女性労働者が婦人参政権を要求してデモを起こしたことに端を発しています。今なお、世界各地で戦争、紛争が続く中、沖縄の歴史を学習し、平和への力にしたいとの思いから、今年は「ひめゆり」の上映と関連事業を企画しました。

開会行事として、広島沖縄県人会の中村会長による沖縄三線の演奏や、琉風会のみなさんによるエイサーなど、沖縄の伝統芸能の披露で幕を開け、県知事、広島市長、国連事務総長からのメッセージを披露し、アピール文を採択しました。会場には若い男女の参加も多数あり、500人が映画鑑賞を楽しみました。平和への思いが、小学生からも寄せられるなど、多くの感想をいただきました。その一部をご紹介します。



「国際女性デーひろしま関連展示」

期 間:2008年3月2日～3月9日

場 所:広島市女性教育センター 4階 大会議室

内 容:沖縄戦と映画「ひめゆり」に関する資料の展示

広島経済大学 岡本ゼミ「沖縄を歩く」写真展
世界から届いた平和メッセージ

映画「ひめゆり」を観て

I女性会議広島支部 藤森 寿子

映画「ひめゆり」はとても重く、そして見ごたえのある映画でした。

この映画は、「話したくない・思い出したくない」つらい体験を、ことこまかに話す生存者たちの生の声が、心にずっしり響きました。

当時、私より年がずいぶん若い女性たちが、自分の人生を省みることができない「国の方針」に従い、「国」に自分の命を捧げてきたのだと。戦後62年経っても、「戦争で体験した悲惨さ」を忘れることも出来ず、亡くなった家族・友人・大切な人たち…今の私は「そういうことがもし起こったら、私は家族、友人はどうなるのか?」と考えることがあります。でも「戦争の悲惨さを知らない私」がちゃんと伝えていけるのか?とも思います。

しかし、沖縄・長崎そして広島、全世界の「戦争を体験した人たち」の本当の生の声を聞き、見て、確かめて、自分の心に刻むことが、今を「生きる」、今を「大切にすること」につながると思います。

「ひめゆり」を観たとき、私は自分の祖父母・母親を思いました。広島で被爆し、その時のつらい思いを話してくれた家族を思いました。私の家族も同じつらい体験をしたのだと。戦争が始まって、民間の人たちは普通の、当たり前の生活を当時続けていたと思います。家族がいて、兄弟がいて、大切な人がいて…だから私たちが「戦争をしてはいけない、人の命を奪ってはいけない」と伝え続けることが大切です。

3・1カザフスタン・市民交流会(報告)

広島市留学生会館において3月1日(土)午後1時から、3・1カザフスタン・市民交流会が開催されました。第1部では基調講演とシンポジウム、第2部ではカザフスタンの伝統楽器「ドンブラ」のミニコンサートが催され、およそ60名が参加し無事に終了いたしました。

第1部

基調講演ではヴェーラ記者を講師としてお招きし、旧ソ連の40年間にわたる核実験当時の体験を語っていただきました。

その後、シンポジウムでは広島の被爆者は被爆体験を、日本の若者はセミパラチンスク核実験場訪問の感想を、カザフスタンからの留学生は両国の平和に対する取り組みを、それぞれ報告しました。

基調講演の内容を一部紹介いたします。

講師:ヴェーラ・グラバチョワ

プロフィール:

セミパラチンスク核実験場から200キロ離れたアウル村出身。教育大学を卒業、ロシア語・ロシア文学教師の資格を取得。青年団体の指導をし、州教育機関の活動を司る旧ソ連党組織に就職。その後16年間はジャーナリズムの世界で活動、ポリゴン(注:核実験場のこと)をテレビ番組や記事のテーマにして人々の生活について報道を行っている。



カザフスタン・セメイ市のテレビキャスターのヴェーラ・グラバチョワさんの講演後、助言者としてセミパラチンスク放射線医学環境研究所副所長ナイラさんを交えてのシンポジウムの様子

〈基調講演要旨〉

20世紀はもう歴史になりました。しかし私達住民にとっては、核兵器の製造と実験、自然環境に影響を与える新たな技術開発の時代として記憶に残っています。

歴史を振り返ってみれば、1945年のアメリカによる広島・長崎両市民に向けての原爆投下は、「世界は危機に瀕している。破壊兵器が生み出された。」という警告だったのです。人類は、どうやってこの事態に立ち向かっていくべきか考えさせられました。

なぜ核実験として、セミパラチンスクから140キロ離れたこの土地が選ばれたのでしょうか。そこがイルティッシュ河畔のステップと平野であり、小高い丘に囲まれ、人口が少なく、飛行機離発着帯に整備されうるスペースを持ち合わせた土地だったからです。最初の「実験場」は、30メートルのやぐらに最初の核施設が建てられ、その後飛行機からの原爆投下実験が行われ、最初の熱核兵器の実験が行われた場所であり、遺跡のように現在まで保存されています。博物館の実験場模型では、壊れた家や地下鉄、橋のあるミニチュア集落が見て取れます。私は専門家と協力して安全を確保しつつ、実験場のゾーン内に足を運ぶ時があります。私の職務は、今生きている人々に核兵器の恐ろしさを伝えることです。

第2部

日本人ドンブラ演奏家とカザフスタン留学生によるカザフ語の歌の共演

広島在住のカザフスタン留学生(大学院)も多く参加しました。思わぬ所での故郷の歌に大いに盛り上がっていました。

「それって本物の愛?～愛と暴力のちがい～」

ひろしまWENETセミナーを終えて(報告)

2008年2月22日(金)、広島県内の高校において、ドメスティック・バイオレンス(以下DVと略す。)加害者プログラム&デートDV防止プログラム・ファシリテーターの第一人者である山口のり子先生(アウェア代表)を講師にお招きし、女子高校生を対象としたセミナーを開催いたしました。当日は、高校生120名、先生方と女性団体連絡会員20名の計140名ほどの参加がありました。対象者をおもに女子高校生に限定した今回の啓発セミナーは、講座の内容を同年代の参加者同士で共有し、じっくりと学んでいただきたいという思いからの開催でした。

講師の山口のり子先生は、2002年「アウェア」(「気づく」の意)を開設され、独自のDV防止プログラムにより、DV加害者への取り組み(DV防止教室)や講演活動を行なわれています。以下、講演の内容を簡単にお伝えいたします。

山口先生のお話

力による暴力のみがDVではなく、相手を自分に従わせ支配しようとする行為もDVである。相手のことを「思って」行なったことであっても「支配」は愛情ではない。束縛は支配の始まりであり、本当の愛情ではない。自分らしさは自分で選ぶもの。

**DVをなくすために大切な5つのこと。
ぜひ覚えていてください。**

- 自分で選ぶ自分らしさ
- 相手を尊重すること
- 共感すること
- 怒りや態度を行動であらわさず、言葉で伝える。
- 自分の感情を相手のせいにならない。



担当者との綿密な打ち合わせ中の山口のり子先生(右)

講演を聴いて

WENET 啓発部 桑原 悦子

講演を聴いて私が特に感じたのは、相手との対話の重要性です。子育てにおいては、子どもが成長していくにつれて、子どもとの会話の時間は少なくなり、大人の介入を嫌がるようになります。そのとき大人は子どもに力づくで教え込もうとし、時には声を荒げるという場面も少なからずあります。これは言葉の暴力が許されるのだと暗に子どもたち伝え、自分は大切にされていないのだと感じさせることになります。

DV撲滅の出発点は、家庭や社会に「話し合う習慣」「対話の輪」を広げていくことだと感じました。私も女性会などの活動で子育て支援などを行なっていくときに、常にこのことを心に留めていきたいと思いました。

日本女性会議2007ひろしま実行委員会総会(お知らせ)

2007年10月、全国から延べ7,000人が集い、第24回目となる日本女性会議が、広島市で開催されました。〈男女共同参画〉と〈平和〉をテーマに、未来を託す社会について考え、具体的な取り組みが、熱心に話し合われました。

一昨年の実行委員会発足以来WENET会員の皆さんに、たくさんのご協力をいただいた「日本女性会議2007ひろしま実行委員会」が、いよいよ、2008年6月1日の総会をもって解散します。

総会に引き続いて、講演会「大助花子の響きあっていきいき人生」が開催されます。

1. 総会

日 時: 2008年6月1日(日) 13:15(開場13:00)~13:45

場 所: 広島国際会議場ヒマワリ

議 事: 第1号議案: 2007年度 事業報告(企画運営会議)

第2号議案: 決算報告

第3号議案: 監査報告

※議事内容は、5月20日以降、広島市役所男女共同参画課で閲覧できます。

2. 講演会 「大助花子の響きあっていきいき人生」

日 時: 2008年6月1日(日) 14:30(開場14:00)~16:00

場 所: 広島国際会議場ヒマワリ

定 員: 700人 参加無料(聴講券が必要)

手話通訳・託児あり: 託児は1歳半~未就学児まで

主 催: 日本女性会議2007ひろしま実行委員会

※講演会につきましてはすでに定員となりましたので、申し込みは締め切りました。

宮川大助花子 (プロフィール)

1979年漫才コンビ結成。吉本興業所属。上方お笑い大賞、上方漫才大賞、日本放送演芸大賞、花王名人大賞など、さまざまな受賞歴を持つしゃべくり漫才の第一人者。

1988年ころから花子が体調を崩し子宮がんを患う。

2007年には大助が脳出血により入院、大助の療養中は花子が一人でステージに立つ。現在二人は、いっそう磨きのかかった漫才で、日本中の人々に元気と勇気を振りまいている。



第25号	2008年3月31日
発行者	広島市女性団体連絡会議 (広島市市民局人権啓発部 男女共同参画室気付)
責任者	信政ちえ子

編集後記

2007年度より、初めてのWENET広報部経験です。会員や連携先の方々のご協力でなんとか24号、25号を発行できました。ありがとうございました。2008年度もよろしくおねがいいたします。